



News Letter

NPO法人ドロップインセンター

令和6年10月23日

第81号

20周年 祝賀会開催

ドロップインセンターと私

旭町児童館
清水 望美

0歳からのジェンダー平等研修会

内閣府 地域働き方改革推進会議委員
ワークライフコンサルタント

渥美 由喜氏

ありがとうございました！

20周年祝賀会開催

10月5日(土)

これからもよろしくお願ひいたします！

平成16年(2004年)6月に私たちは産声をあげました。
それから早20年、皆様のご協力、ご尽力のおかげさま
を持ちまして20年を迎えることができました。



長友 みほ理事長あいさつ

～式典内あいさつより

はじめに、設立当初より理事として当法人にご理解ご協力を
くださいました星山健一さんが、今年の6月に逝去されました。
星山さんがこの場におられないことが、信じられないと同時に、
もしこの場にいらっしゃったら、いつもの笑顔で20周年を一
緒に喜んでくださるだろうなと思うと、本当に残念でなりませ
ん。心よりご冥福をお祈りいたします。

さて、ドロップインセンターは、人と人がつながる「ひろ
ば」を提供することにより、子どもとおとながともに育ち支え
あう地域づくりをすすめることを目的に設立しました。

ドロップインセンターという名前は、その名の通り子育て中
の親子がふらっといつでも立ち寄れるひろばになるようにとの
思いから名付けられました。

ひろばづくりから支援の輪を広げ、現在では市内の児童館、
児童センター、児童クラブ、地域子育て支援センター、子育て
交流ひろばなどを宮崎市の指定管理事業や委託事業として運営
しています。

また、2019年(平成31年)からは、ファミリーサポ
ートセンターみやざきを含む、宮崎市男女共同参画センターの指
定管理事業の運営をスタートし、すべての人が性別にかかわり
なく、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同
参画社会づくりにも取り組んでいるところです。8月末の台風
10号の竜巻等で被災された世帯に、生活再建の助けになれば
と子育て支援の視点から「災害時におけるボランティア託児」
に取り組み、よろこんでいただきました。

この20年の間、ドロップインセンターでは、子どもは、地
域の宝(財産)として、子育て支援事業に対して様々な視点で
取り組んでまいりました。

これもひとえに、多くの関係団体の皆様、理事、監事、職
員、会員の皆さま、そして当法人にこれまで関わってくだ
さったすべての方々のお陰でございます。

本当に心より深く、深くお礼を申し上げます。

今後とも、特定非営利活動法人ドロップインセンターをど
うぞよろしくお願ひいたします。

ドロップインセンターと私

所属：旭町児童館

清水 望美



ドロップインセンター20周年おめでとうございます。私は
旭町児童クラブに9年、旭町児童館に4年所属し、まもなく1
4年目を迎えようとしています。

その中で児童厚生員・放課後児童支援員・セカンドステップ
指導員・CSP養成講座で資格勉強をし、妊娠してからは自分
自身が利用者となって、親なる講座、BP、NP他、ドロップイン
の支援センター・広場の行事に参加し、恩恵をたくさん受けさ
せていただきました(笑)

ドロップインに関わる皆さん素敵な方ばかりで、毎日楽しく
仕事をしています。年々児童の特性に変化を感じ、支援の難し
さに直面する出来事も増えているように感じますが「利用者に
とって、より良い場にしよう」という思いを持って働く皆さん
とご一緒しながら、私自身も励む日々です。

ドロップインセンターの益々の発展と、働いている皆さん・
利用者の皆さんにとって、ドロップインが益々良い場所とな
りますようお願い、私自身も頑張ります！



突風被害を受けた方を対象に災害ボランティアを実施しました！

令和6年8月の台風10号に伴う竜巻とみられる突風被害にあわれた方を対象にした託児ボランティアを行いました。会場には赤江東子育て交流ひろばを利用し、9月17日から25日までの開設日で計5日間実施しました。実際に利用した方からは、「落ち着いて片づけをすることができました。」と感謝の言葉が聞かれました。

また、できるだけ託児ボランティアの存在を周知しようと、報道機関にもリリースを送付し、テレビ局3社、新聞1社の取材を受けました。

ドロップインセンターの災害ボランティアは、平成17年の台風14号でも実施した実績があります。今後も、子育て支援に関わるものとして災害時にできる地域貢献として、どのようなニーズがあるかを考えていきたいと思えます。



0歳からのジェンダー平等研修会

渥美 由喜氏（内閣府 地域働き方改革推進会議委員・ワークライフコンサルタント）に講演をしていただきました！

令和6年度宮崎県人権啓発推進協議会委託事業として保育施設で働く方を対象にした研修会で、県内の保育関係者約60人が、会場参加とYouTubeによるリモート参加で実施しました。

渥美先生の幼少期の体験や子育て支援は未来をつくることなどの話があり、私たちが進む未来は「互いに認め合い、一人ひとりが最大限に能力を発揮できる」社会であってほしいと感じました。

この事業は12月16日（月）にも保育関係者を招いてのパネルディスカッションを予定しています。



10/15～18日、宮崎市職員が体験研修に来てくださって感想をいただきました

今回の研修を通じて、改めて子育て支援の大切を学びました。

地域子育て支援センター・交流ひろばは、未就学児の遊び場としての役割は勿論のこと、保護者の方の悩みを解消する場にもなっており、なくてはならない存在であると感じました。実際に保護者の方からも、「このような施設があって助かる」「保護者同士の交流の場になっており、相談しやすい」というお話を聞くことが出来ました。

児童館・児童センターでは、主に小学生の交流の場となっており、学校では味わえない、日本の伝統行事を行ったり、共に読書や勉強に励んだり、重要な役割を担っていることが解りました。

今後、様々な角度から子育て支援に関わることがあるかと思えます。その際は、今回の研修で学び気付いたことを活かし、宮崎の将来を担う子ども達の助けになりたいと思えます。



環境指導課
木下隆馬



市民課
三浦める

各施設を回らせていただいてセンターや児童館の実態を間近で体験することができました。そこでは、様々な課題に対して施設の職員の方が工夫し互いに協力しあって乗り越えられており大変勉強になりました。また、半日しかない中で私達に丁寧に子どもや保護者に対する対応や現状を享受していただきました。

これから、ドロップインセンターでの学びを日々の業務に活かしてよりよい市民サービスを提供できるよう努力を欠かさないようにしたいです。

